

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福祉型児童発達支援センター 千葉市療育センター やまびこルーム		
○保護者評価実施期間	令和8年1月7日 ~ 令和8年1月23日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50名	(回答者数) 38名
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日 ~ 令和8年2月16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	難聴幼児の療育機関として専門性を活かし、個々に合わせた丁寧できめ細やかな療育を行っている。	お子様一人ひとりの聴力や発達に合わせ、個別の支援計画を作成し、それに基づき療育プログラム(聴力検査、補聴器調整、活動内容等)を実践している。	・専門性の維持・向上またスキルアップの為、外部・内部研修に積極的に参加する。 ・情報伝達講習により情報共有や専門性の向上を図る。
2	多職種が在籍している為、一人ひとりの難聴幼児を様々な視点から捉え、療育を提供していくことができる。	・療育のマンネリ化を防ぐため、それぞれ情報を提供し合い最新の情報にアンテナを張り巡らせながら、活動内容に取り入れている。 ・限られた時間を最大限活用しながらグループ療育の事前・事後に情報共有する機会を確保している。 ・やまびこ独自のキャラクターを登場させ、より親しみやすさにつなげている。	・お子様が安心して療育を受けられる環境設備を整える。 (お子様にとって楽しい場、また来たい場、分かる場、自分らしくいられる場、難聴の友達がいる場)
3	保護者様と共に来所ならでの保護者支援が充実している為、保護者満足度が高く推移している。	・保護者様の声に真摯に耳を傾け、寄り添い共感する姿勢で療育を行っている。 ・保護者様のニーズにも応えた行事や勉強会を実施している。 ・お子様が通う幼稚園・保育園・事業所等との関係機関との連携を強化している。 ・幼稚園や保育所への訪問、併行通園しているお子様の「きこえにくさ」について双方顔の見える関係性を築く中で情報交換や情報共有している。	・個別の設定頻度のみならず、保護者ニーズや支援内容の必要性に応じてその都度来所頻度の検討を重ねる。 ・保護者ニーズや参加希望が高い行事や勉強会の開催日や日数、実施方法等について検証し、更なる充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の知識の向上や技術の研鑽を積もうとする積極的な取り組みが少ない。	日々の療育業務のみで業務時間は終了してしまう為、本来必要な職務(聴力検査、補聴器調整等)のスキルアップに費やす時間の確保ができず、現状のままですとしまし。	限られた時間という事を認識し、業務の効率化について見直す。
2	職員の事業所存続における危機意識の希薄さ	施設運営や経営収支に関わる職員が少ないため、今のような現状に置かれているのか現場の職員は捉えにくく、関心も薄い。	施設運営会議の内容を職員に周知徹底し、議事録も併せて回覧する。決定事項だけでなく進捗状況も伝える。
3	・保護者様の9割が就労されており、仕事を休んで遠方から療育に来所される事が難しい。	・在住地域の集団に於いて、同じ難聴をもつお子様同士、保護者様同士のつながりは持ちにくい。	・グループ(集団)活動の日数を増やす。 ・保護者様がお子様を連れて勉強会に来所されたり、行事に参加されることで異年齢のお子様同士、保護者様同士の交流の機会を設ける。 ・保護者様が来たいと思う療育プログラムの吟味。行事や勉強会の設定。 ・来所しやすい曜日や時間帯が選択できるような複数日設定とする。